

令和3年度第1回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和3年12月20日（月）10時00分～12時00分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員 出席8名（※欠席1名 田村武委員）

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕 委員、宮沢一正 委員、田村康樹 委員、及川安 委員、関晴恵 委員、熊谷稔 委員、新田育夫 委員、赤塚貴史 委員

【滝沢市】

滝沢市長 主濱了

上下水道部 部長 齋藤克也

水道総務課 課長 小林純子、総括主査 佐藤泰生、主任 荒井ひかる

水道整備課 課長 佐々木馨、総括主査 角掛雄一、総括主査 伊藤圭晃

下水道課 課長 古前田聡、主幹 高橋利昌、総括主査 黒澤滋

IV 次 第

1 開会

2 挨拶

市長挨拶、委員及び事務局の紹介

3 議事

(1) 議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に宮沢一正委員、熊谷稔委員を指名した。

(2) 報告事項

以下①～④の報告事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

①令和2年度滝沢市水道事業会計決算について（水道資料1～4）

【及川委員】令和2年度の有収率が前年より3.8%向上したが、有収率93.3%は県内あるいは全国で比較したときにどのような位置付けの数字になるか。

【水道整備課長】県内だと、有収率は平均で90～91%となっている。これまではほぼ県平均だったが、令和2年度は大きく上昇しており、県内でも優秀なほうと考えられる。令和3年度については前年度の有収率を下回る見込みであるが、90、91%に割り込むようなものではない。

②令和3年度滝沢市水道事業の進捗状況について（水道資料5）

【熊谷委員】岩手県としては事業者の経営基盤の強化と技術の継承を重点に置き、

広域連携を推進すると言っている。広域連携を推進するというのは、例えば盛岡市と滝沢市と一緒に事業を行うことを県が推進するという意味かと受け止めた。滝沢市としては広域連携についてどう考えているか。

【水道総務課長】今のところ、何も決まっていない。ただ、人口減少に伴い給水量が減ってしまうため、料金を上げていかない限り、給水収益は減っていく。県で水道事業を運営しているところもあれば民間に委託しているところもあり、それぞれ生き残るための策を模索している状況。今のところ、盛岡広域は経営が安定している事業体が多いが、それも永遠ではない。今は事務レベルで、この事業を一緒にやりましょう、といった形の協力はすぐできると思うが、ゆくゆくは統合、あるいは事業組合を作るのも一つの手かもしれないし、何らかの大掛かりな連携が必要になる日が来るとは思う。

【熊谷委員】水道を必要とする人が資料を見ると減っているが、使用者が減ってきている状況で水道管の整備をしていかなければならない。収入は減っていくのに費用は設備等の整備で更にかかっていくと思われる。そのような中、広域化については何も決まっていないとのことだが、何かしら探っている状況なのか。

【水道総務課長】広域ブロックの中でどこまでの連携ができるのか、研究会で話し合っている。例えば、盛岡市と施設を統合して、滝沢市の浄水場を廃止するなど、ダウンサイジングするシミュレーションは行った。ただ、今は各事業体の経営に差があるので、すり合わせていかなければ組織的な統合は難しいと考えられ、思い切った統合には踏み込んでいない。

【山田委員】広域化の話は、各自治体が抱えている固有の課題を解決した上に、広域化によるメリット・デメリットが精査されると思う。今滝沢市が抱えている課題が何なのかということ、自助努力でどこまで解決できるかというところを見極めながら進めていく事業だと認識している。我々が抱えている様々な施設の稼働や維持管理にお金が必要だとするならば、料金改定も各自治体の中で取り組まなければいけない。広域化で連携がしやすいところは速やかに進めてもらいたい、広域化というのがおんぶに抱っこ状態になるという誤解は避けなければならない。

【水道総務課長】滝沢市にとっての広域化のメリットは人材育成であると思っている。盛岡市はプロパーの職員が多く、職員数も滝沢市の何倍もあり、どれだけ業務を外部に委託したとしても、盛岡市の水道局の中で専門的知識を継承できている。滝沢市はその点が弱く、小さな規模で未来永劫事業を続けていくことに対して人材育成が課題となっている。そういう意味では、広域化により職員のやり取りができることがメリットと考えている。

【及川委員】広域化についてメリット・デメリットあると思うが、現時点では、合併や広域化は滝沢市にとってあまりメリットはないのではないかと。当面は検討会などで情報収集はしても、急ぐことはないのではないかと。心配しているのが、滝沢市は県内でもなかなかないくらい地下水を飲んでいるわけで、これが広域化によって河川の水を混ぜたものを飲ませられたのでは、せっかくの滝沢市のいいところが薄れてくるのではないかと。

【山田委員】良質な水源を持っているという意味では、滝沢市の大きな財産であるため、変に均等化されることがないようにという気持ちはわかる。物理的にいえば河川水が他から混ざるといえることはないだろうが、重要な指摘かと思う。

【熊谷委員】柳沢大湧口の水は1日の滝沢市で必要とする水量が湧いていると伺ったが、そのような恵まれた条件の中で表流水を取水する必要があるのか。

【水道整備課長】2%は表流水で補っており、この点については次期水道ビジョンや経営計画の策定において議論の必要があるが、実質はほぼ地下水であり、表流水は柳沢低区浄水場と滝沢浄水場のろ過地を維持管理するための取水を行っているというのが現状である。ただ、災害時・緊急時において地下水が飲めなくなったということがあれば、滝沢浄水場と柳沢低区浄水場を残して全量取水をする。現在進めている一本木配水池系の連絡管が全部繋がれば、全量ではないが、一本木から大釜まで水が供給できるようになる。表流水となると、柳沢低区浄水場より上のほうは供給できないという状況にはなる。その点については、今のビジョンの予定では柳沢低区浄水場を廃止し、滝沢浄水場を残すという方向である。表流水は、大雨が降らなければもともときれいな水なので問題はないかと思っているが、地下水が豊富に取れるということであれば確かに地下水は重要である。かといって、災害等を考えると100%地下水にすることはできないというのが現状である。

【山田委員】かつての岩手山の噴火の問題が懸念されたときに、地下水の利用だけに頼っていると緊急時に対応できないのではないかという懸念があった。しかしながら地下水を利用する割合がこの10年、15年で比率を高めてきたのは、広域連携の関係で緊急時における水道の接続がハード的にはほぼ済んでおり、水を調達できる状況が整ってきているので、表流水にある程度頼らなくても大丈夫ではないかということで進めてきた経緯があるかと思う。経営的にも方式の異なる水源管理というのは非常に負担が大きいので、そういう意味では経営上も水質の安定化を含めてうまくいっているのではないかと思っている。10年以上見てきて順調にきているということを感じている。

### ③令和2年度滝沢市下水道事業会計決算について（下水道資料1～4）

【及川委員】いずみ巣子ニュータウンへの公共下水道への接続について、現時点での見通しはどうなっているか。

【下水道課長】下水道接続をするための協議は継続しているが、事業化の目途は立っていない。いずみ巣子ニュータウンの区画が460、470あったはずだが、それに対して300ほど埋まっている状況であり、下水道に接続する場合には収益が見込める。このため、可能であれば下水道に接続するというかたちで進めていきたいが、民間の施設ということもあり、使用者、もしくは組合員の方々の同意がなければ滝沢市としては動けない。現在、いずみ巣子ニュータウンの中で開発者と組合とで話し合いをしているところである。弁護士が仲介しているのだが、民間の資産ということで非常にデリケートな部分があり滝沢市はあまり介入できないという状況。可能であれば接続したいが、接続できなくなった場

合にもう一度費用対効果を計算し、収益に合わないということであれば見合わせるといったかたちになると思う。

【赤塚委員】下水道の処理区域内人口が約39,000人で上水道の給水人口が約50,000人となっているが、この差はどこから出るのか。

【下水道課長】下水道は基本的に市街化区域に整備される都市施設のため、市全域にお客様を持つものではない。現在、市街化区域以外で下水道が入っているのは、あすみ野と小岩井地区西側だけとなっており、上水道とは人口がリンクしていない。

【山田委員】滝沢市の経営に大きく影響を及ぼす流域下水道の本体のほうの経営状況、経営方針等、現時点で何か情報提供はあるか。

【下水道課長】滝沢市の下水道は処理施設を持っていないので、県の汚水処理施設で汚水を処理している。これにより、流域下水道という所に維持管理の負担金と建設に関する負担金の2種類の負担金を支払っている。維持負担金というのが今年度で年間約2億円支払うのだが、岩手県で施設の整備等をしているため、都南流域下水道というブロックに属する盛岡市、滝沢市、矢巾町、雫石町が、部分的にそれぞれ按分して負担金を支払っている。ただし、どこも施設が古くなってきているため、維持に関する金額が高くなってきているということで、維持負担金も現在値上げの方向で動いている。来年度の負担金は確定していないが、大体1千万～3千万円の間で値上げされる予定となっている。下水道としては、3千万円上げられてしまうと経費回収率は6～8%下がるので、そのあたりも見込んで住民、使用者と話し合いもあると思うが、使用料の見直し等を考えていかなければならない。

【山田委員】接続率を上げていくことが有収率を上げるうえでも重要な作業の一つとなると思うので、引き続き啓発、情報提供して、下水道事業に協力をいただき、共に滝沢市の水環境をよくするという目標に向けて歩みだせるよう働きかけをしてほしい。

#### ④令和3年度下水道事業の進捗状況について（下水道資料5）

【山田委員】雨水処理施設整備について、浸水対策等進めているが、全体計画の何割ほどの進捗状況か。

【下水道課主幹】現在計画として進めている地区について、今年度工事しているのは大釜地区のみとなっている。全体の計画からすれば現在進めている今年度分については10%程度の進捗具合かとみている。

【山田委員】近年の集中豪雨や大雨等で災害が増えているので、速やかな計画の実行をお願いしたい。

【山田委員】3、4年ほど前だったかと思うが、不明水の問題で対策が色々検討されたが、現状どのような状況か。

【下水道課長】不明水対策として、取付管の更新とマンホール蓋の取替えを行っているが、令和元年度にこれらを実施したおかげか、有収率が平成30年度77.1%から令和元年度81.7%に伸びたので効果があったと思われる。しかし、令和2

年度でまた下がってしまったので、おそらく効果が出たというより、現状維持のまま進んでいるのだろうと思われる。大々的に不明水対策をするとすると、費用対効果的には合わないが、長い目で見る必要があることから、現状の計画では、滝沢市の下水道エリアを5区画に分け、1区画につき計画、調査、修繕工事・改築工事に約5年をかけて不明水対策をしていこうと考えている。よって、滝沢市全域の不明水対策をするとすると、最低でも25年ほどかかると踏んでいる。ただ、対策をしなければ道路の陥没等が起きるおそれがあるため、時期としては令和8年以降になると思うが、確実に計画して実施していきたい。

#### (4) 審議事項

以下①及び②の審議事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

##### ①令和4年度滝沢市水道事業会計予算基本方針について（水道資料6）

【新田委員】資料5ページの耐震化率について。先般配布された水道広報誌にも耐震化率が掲載されていたが、令和2年度末に34.8%となっており全体の3分の1となっているわけだが、これは他行政と比較してどうなのか。また、何年たったら交換しなければならない、といった法律に基づいて耐震化を行っているのか、あるいは市独自の計画を立てているのか。

【水道整備課長】全国的に見て、滝沢市の耐震化率は低い。国で、令和10年までに耐震適合率を60%とすることを目標としている。令和2年度で滝沢市の耐震適合率は導水管、送水管、配水管合わせて44.45%となっている。60%にはまだ遠いが、有効率、有収率ともに多いので、滝沢市としてはまず漏水が多い地区のビニール管を取り替えたい。耐震適合されていないダクタイル鋳鉄管もあるが、比較的漏水が少ないことから、漏水が多い地区に限定して交換していきたいと考えている。次期計画、ビジョン策定において管路の更新計画、耐震化計画を整備していきたい。

【赤塚委員】管が古い地区ほど漏水が多いのか、特定の地域で漏水が多いのか。

【水道整備課長】漏水が多いところはビニール管を使用している地区と、比較的給水の水圧が高い地区である。けやきの平団地などは漏水が多い。大釜の区画整理地区もビニール管だが、昨年口径100ミリの管が漏水し、一時的に他の地区の水圧が低下した事例がある。場所を絞り込みながら、管の耐用年数にかかわらず漏水の多い箇所を優先的に耐震化している。

【新田委員】滝沢市は湧き水を利用しているわけだが、自然流下方式で配水しているのか、電気などを使用しているのか、浄水場を設けたうえで高低差を利用して各家庭に配っているのか。

【水道整備課長】滝沢市は水源地が比較的高いところにある。基本的にポンプ場はなく、自然流下で流している。

【及川委員】6ページに「環境・持続」の項目があるが、実際資料を読むと環境に触れている事業計画がない。滝沢市は水源地が高い場所にあり地形的有利さがあるため、落差を利用したマイクロ発電を検討してみてはどうか。

【上下水道部長】マイクロ発電は有意義なものだと思う。ただ、設備投資などがど

の程度かかるか明らかでない。水道ビジョンにおいても小水力発電の推進についてうたわれているため、検討・研究させていただきたい。

【山田委員】以前から話題にはなっていた。設置の余地があれば検討を進めていくように。

【熊谷委員】人材育成、技術の継承について。自身は以前浄水場の管理員を務めており、その際に水が作られる過程を知った。コンピューターによる管理もしていたが、操作技術も必要だと感じた。人事異動もあるが、人材育成、技術継承についてはぜひ頑張っていたいただきたい。

【水道総務課長】人事異動に関しては、ヒアリングでこちらの希望を述べても異動に反映されないこともある。ベテランがいる組織だと盤石だが、いずれ退職する。ベテランも置きつつ、若手を育て循環させていくことが理想的だとは思う。

#### ②令和4年度滝沢市下水道事業会計予算基本方針について（下水道資料6）

【赤塚委員】上水道の事業では顧客サービス向上のために広報活動を取り入れているが、下水道では広報活動、見学会や勉強会などはないのか。

【下水道課長】滝沢市で持っている下水道の施設は道路下の管のみであり、見学会で施設を目にするというようなことは難しい。そのため、滝祭などで下水道の仕組み等を知っていただくという機会を設けることは可能と考える。

【水道総務課長】上下水道部で発行している広報誌は、以前は上水道の記事のみ掲載していたが、下水道事業の企業化に伴い、下水道の記事も掲載するようになった。滝祭等のイベントにおいても上水道のことだけでなく、下水道のパネル展示を実施して啓発を図っている。

#### 4 その他

委員の皆様の任期は令和4年3月31日までとなっているが、この2年、顔をあわせて集まることもなく、また、来年は上水道、下水道共に様々な案件を抱えているため、次年度も引き続き委員として力添えいただきたい。

#### 5 閉会